会報 安曇野教育

第 77 号
「安曇野の子どもを語る会

発行所　安曇野市教育会　　発行日　令和５年１１月３０日
発行人　松下　玲　　題　字　川　田　　殖
編　集　会報委員会、安曇野の子どもを語る会担当常任委員・幹事

安曇野の子どもを語る会

去る１１月１１日（土）に、南安曇教育文化会館で「安曇野の子どもを語る会」が開かれた。

安曇野市教育委員会教育長　　様から来賓あいさつをいただき、　　常任委員が基調提案を行った。本年度の討議のテーマを「安曇野を『心のふるさと』『ここで暮らしたい』と思える子どもに育てるには　～産学官一体となったキャリア教育の推進～」に設定し、各分散会で、市内の事業所・企業、ＰＴＡ、教育委員会、小中学校教職員の方々が一堂に会し、熱心に討議が行われた。

またキャリア教育の実践を行っている中学生の実践として、　　中学校の生徒が、ポスターセッションを行った。自分たちの住む地域についての提案を発表し、参加者から出される質問・意見に真摯に受け答えをする姿に、大きな拍手が起こった。

一　討議のテーマ

安曇野を『心のふるさと』『ここで暮らしたい』と思える子どもを育てるには
～産学官が一体となったキャリア教育の推進～

二　討議の柱

「安曇野を『心のふるさと』『ここで暮らしたい』と思える子どもに育てるにはどうしたらよいのか。産官学が一体となって、具体的にどのようなキャリア教育（活動や取り組み）を進めていけばよいのか。」

三　基調提案

「安曇野を『心のふるさと』『ここで暮らしたい』と思える子どもに育てるには」
～産学官一体となったキャリア教育の推進～
穂高北小学校

1　はじめに

今年度は、昨年度の反省を踏まえて、テーマを継続しながらも、企業と学校と家庭、そして行政が「どんな子どもを育てるのか」という点を更に焦点化して、共有認識を持ち、話し合いを深めることができればと考えました。ただ、テーマの中に、「地域を愛し、たくましく生き抜く「安曇野の子ども」」とありましたが、この言葉を、子どもたちの目線に立ち、子どもの気持ちに寄り添い、心情を捉えた表現に変え、「安曇野を、『心のふるさと』『ここで暮らしたい』と思える子ども」を育てるためにはどうしたらよいか、として提案したいと考えました。その心根としては、仮に、将来、子ども達が安曇野に戻ってこられなくても、安曇野が『心のふるさと』であると自信を持って語ることができる子ども達に育ってくれればいいなぁ。また、将来、安曇野で暮らせるかどうかが今はわからなくても、できれば将来、『この安曇野で暮らしたい』と思える子ども達に育ってくれればいいなぁという思いで皆さんに考えてもらえたらと思っております。

そこで本年度は、子どもが将来、安曇野に戻ってきたい、この地を忘れないと思えるために、討議のテーマを、『安曇野を『心のふるさと』『ここで暮らしたい』と思える子どもを育てるには　～産学官が一体となったキャリア教育の推進～』とし、学校、保護者、企業、行政のそれぞれの立場から思い思いの考えを語っていただける機会となればと思い、基調提案をさせていただきました。

2　基調提案内容

※次ページ資料参照

テーマ:「安曇野を『心のふるさと』『ここで暮らしたい』と思える子どもを育てるには」

～産学官が一体となったキャリア教育の在り方～

１１月１１日（土）

（３）目指す教育・学校の将来像

①「郷土への愛着と誇りを持ち、志を高く未来を切り開く安曇野教育の実現」

②「行きたい、学びたい、地域からも必要とされる魅力ある学校の創造」

③キャリア教育は幅広く難しいテーマですが、続けることが大事だと感じました。「市長への提言」みたいな目標があってもよいかと思いました。

④企業と学校と家庭が「どんな子どもを育てるのか」という点について、共有認識を持ち、キャリア教育を進めていけたらと思いました。

（１）現代の世の中の課題

①急激に変化する社会・予測困難な時代

②情報通信における技術革新

③コロナにより起こった社会の変化

④少子化による学びの環境の変化

⇩

☞価値観やライフスタイルの多様化

☞子どもを取り巻く環境の複雑化

☞人と人との交わって学ぶ機会の減少

☞学校だけでは解決できない様々な課題の増加

（４）安曇野市立小・中学校の将来構想

【将来構想の中の一文には・・・】

『今後、安曇野市が持続可能な活力ある自治体として生き残るためには、小中学校や高校の時代み安曇野のよさ、地域の魅力、ふるさとを心に刻んでもらえるか、安曇野地域にある様々な分野の企業や働く場があることを認識してもらえるかなどの小中高を通じたキャリア教育についても連携して取り組む必要がある。』（R4.3　安曇野市教育委員会）

（６）今年度のテーマについて

【昨年度のテーマ】

「地域を愛し、たくましく生き抜く「安曇野の子ども」・・・・」

⇩

【今年度のテーマ】

「安曇野を、『心のふるさと』『ここで暮らしたい』と思える子ども・・・」

（２）市政全般に関する市民意識調査（R4.3）

（質問の項目）

『あなたが期待するこれからの安曇野市の小中学校の姿はどれですか。』

⇩

「郷土への愛着や誇りを高める教育」

（５）昨年度の「安曇野の子どもを語る◇会」での参加者からのご意見・感想

①テーマについては、今後の地域の在り方や関わり方、企業の新たな発見があった。それぞれの立場から、育てたい力や何ができるのかを聞くことができた。

②来年度は、今回とテーマや方向性を変えずに、高校関係者や市の職員の参加も含め、より深める方向で考えてみては？

（７）安曇野市立小中学校、県立高校◇◇◇のこれからの取り組み

①小中一貫教育の中で改めて見直し、ふるさとに対する愛着や誇り、自信につなげたいと願い、「安曇野の時間（仮称）」を位置付けていく。

②県立高校では、「信州学」を中心にして、市内４校でも安曇野市の地域素材を教材として活用し、探究的な学びを実現していく。

③令和６年度以降、市内７校の中学生が参加し、自らの生き方や働く意味などを考える機会の実現を検討している。

（８）討議の柱

★「安曇野を、『心のふるさと』『ここで暮らしたい』と思える子どもに育てるにはどうしたらよいのか。産官学が一体となって、具体的にどのようなキャリア教育（活動や取り組み）を進めていけばよいのか。」

各分散会の様子

【第１分散会】

KIIYA Cafe & hostel の方が安曇野で開業された経緯とその思いについて語ってくださいました。生まれも育ちも安曇野で、子どもの頃のサイクリングやキャンプ、ガールスカウト等の体験がご自身の原風景となり、成人して安曇野に戻り、安曇野のよさを伝えていきたいという思いで開業したそうです。「たくさんの魅力がある安曇野ですが、アクティビティーが少ないので、もっといろんなことを体験できる環境が増えるとよいのではないか」とお話しいただきました。

参会者からは①地域で楽しい思い出があればその人にとって心のふるさとになるのでは。②地元を好きになる理由はたくさんあるので、様々なアプローチを。③他地域に目を向けることで地元のよさに気づける場合も。④現状に満足することなく、フレキシブルに自信を持って自己選択できたり、新しい環境に飛び込んでいけたりできる環境作りが大切等、それぞれの心のふるさとに思いを馳せながら、安曇野の子どもについて語り合うことができました。

【第２分散会】

デンソーエアクールの方から「企業にとって人材確保が最も大切で少子化、高校生の就職離れの影響で難しい」「大企業も地方で募集しており、人材の獲得は中小企業にとってはさらに厳しい」「他県出身者のＩ・Ｊターンも多い。安曇野市の魅力を旅行で知って就職、自然の中で子育てしたい人も多い」というお話をいただきました。また、企業と地域の関わりとして、子ども病院への支援活動、三才山へ檜の植樹、業務用エアコンの寄贈、芝生グラウンドの貸し出し等を行っているとのことでした。

討議①では、「総合的な学習の時間」の探究活動の中で地域の自然や成り立ち（アイデンティティー）、素晴らしさを知る。かっこいい大人と出会う、挨拶等の伝統文化を大切にしていく、地域課題を教えていく等の意見が出されました。

討議②では、学校でキャリア教育を充実させ、地域で働く場所があることを知ることが大切という意見が出されました。短時間でしたが、それぞれの立場から多く発言していただき、有意義な時間となりました。

【第３分散会】

多田プレシジョンの社長から、企業人としての心構えについてお話いただいたことの中で、次の３点が印象に残りました。

(1)企業の本分はもの作りであるが、その原点は人材。人材の土台は家庭。その上で、もの作りに　必要な技術や心構えを教育してきた。

(2)「もの作りは人助け」「人は行動力」が、企業人に必要な心構えである。

(3)企業としての「体幹」を鍛える。そのためには、得意な分野のみ受注したり、得意な仕事ばかりしたりするのではなく、苦手なことや嫌なことも引き受けていく。それがいずれ栄養となり、企業や人としての「体幹」を強くしていく。さらに、同行した若手社員は、「異分野への挑戦が自分の新たな可能性に気づかされる機会となる」。

参会者からは、こうした生き方や考え方の大人に出会わせていくことも、学校や家庭の役割の一つではないかといった声が聞かれました。

唐澤校長先生による基調提案の様子

活発な討議が行われた分散会の様子

【第４分散会】

斉藤農園あぐりすの方より、現在の農業は高齢化が進み、人材不足で、若い人たちに農業に興味をもってほしい、安曇野で就職したいと考える若者が増えてほしい、ということを願って、高校の講師として活躍されているという話をお聞きしました。　討議では、（１）地域の良さ・課題を知ること（先生や親に聞く、地域を歩く、行政に聞くなどの方法を通して）（２）多くの人とかかわること。（３）小中高が連携（育みたい姿を共有）していくことが柱となりました。それには、小学校の「総合的な学習の時間」や中学校の「キャリアフェスティバル」を充実させていくことが大切である。そのためには、授業時間の制限はあるが、できる限り児童生徒が自ら課題をもち、足を運び、安曇野について学ぶ機会を増やしていきたい。その子どもの学びに産学官が一体となって支えていきたいという確認ができました。市としても中学生のキャリフェスへの取り組みを考えていただいていることをお聞きできました。

【第５分散会】

水産試験場の方から、水産試験場の役割（研究・技術指導・特殊な生産）や、就職するには水産の知識が必要であること、社会見学の際どのような学習や説明を行っているか、長野県の就職状況等を伺いました。また、地元にどのような職場があるのか、就職するにはどんなことが必要か、小中学生の頃から知ることができると良いのではという提案もありました。　小学生の社会見学においてもキャリア教育の視点を取り入れていくことが大切ではないか。中学校の職場体験学習において生徒たちが直接事業所を開拓していく等、主体的に地元企業にアプローチしている。安曇野市では中学生対象のキャリアフェスティバルが計画されている。自己肯定感や達成感を多く味わうことで自分の強みを見つけていけるのではないか。企業・行政・学校が連携して実践を重ねていくことを大切にしてほしい。このような内容で活発な討議が交わされました。

＜参加された方の感想より＞

・地域の方々と協力し合って色々なものを形にしていきたいと思いました。
・地区ごとに教員だけでなく企業の方や保護者も交えて話せたことは見通しの持てる有意義な時間になった。
・中学生のポスターセッション、企業やＰＴＡの方など教員だけでない会合が大変刺激になりました。
・経験豊かな社長の思いに身が引き締まり、心温まる場となりました。地域を地域の若者を思う気持ちに感謝です。
・学校やＰＴＡの方の話を聞き良い経験になった。今後の見学対応の際に盛り込んでいきたい。
・様々な意見を聞くことができ参考になった。地域の中で産学官の連携が重要だと言うことを改めて感じた。
・明科中の地域学習の発表は堂々と自信にあふれ、探究の充実を感じました。
・多くの時間を学校で過ごす自分にとって地域の方の考えや思いに触れる機会は大変貴重で魅力的でした。

親子陶芸教室

小学校

１０月２１日（土）に、穂高陶芸会館にて「親子陶芸教室」が開催されました。今年度も多くのご家庭から申し込みをいただき、当日は、１７家庭の親子の皆さんに参加していただきました。

まず、開校式を行いました。安曇野市教育会より挨拶があり、陶芸会館の担当者より講師の紹介をしていただきました。

開校式の後は、２会場に分かれて制作に入りました。今年度も４名の講師の方々に教えていただきました。子どもたちは、慣れない粘土の扱いに戸惑っていたため、講師の先生に粘土のこね方や形の作り方など、丁寧に教えていただきながら制作しました。茶碗の形がゆがまないようにすることや、カップの取っ手をつけるところなど、難しい部分は講師の方と一緒に制作しました。形ができたら模様をつけたり、絵をかいたりしました。制作中は、講師の方のお手本に歓声をあげたり、同じグループの家庭同士で作品の上手なところを伝えあったりして、皆さんとても楽しそうでした。子ども以上に親が夢中になって作業している姿も印象的でした。

最後に全ての作品が並べられましたが、どれを見ても個性豊かで素晴らしい作品ばかりでした。

今回制作した作品は、陶芸会館の方が乾燥させ、焼いてくださいます。完成した作品は陶芸会館より各ご家庭に連絡をしていただくようになっています。仕上がりの連絡が来るのを楽しみに待っていることと思います。

実技講習会報告

新型ウイルスが５類感染症に移行したことから、活動の場所や内容で制限を設けない、通常型の実施となりました。７月 28 日（哲学研修講座は 25 日）、17 講座でのべ約 400 名が参加。特別委員の先生方の趣向を凝らした内容のもと、自分が興味のある講座を選択し、学校、学年や教科の枠を超えた職員同士が、実りある時間を過ごしました。

講座内容	講座内容
書を学ぼう・書こう・楽しもう！ ～大澤逸山先生に学ぶ書写指導 2023 夏～	哲学研修講座 ～木村素衛の思想から今日の教育課題解決のためのヒントを探る～
安曇野の企業見学	異文化理解を深めよう！
数学的に考える資質・能力を伸ばす授業作り SGRAPA で『データの活用』	ポジティブな行動支援 教育相談の開始時期 ～ マイナーメジャー ～
今後の授業に活かそう！魅力的な理科教材紹介	安曇野市文書館（堀金）～臼井吉見文学館～
民族楽器を楽しむ　音楽での ICT 活用法を学ぼう！	Chromebook・ロイロノートを授業に活かそう
ステンドグラスのペンダント作り レザーのバッグインバッグ作り	繊維のダイヤモンド『穂高天蚕糸』で糸かけアート
明日からの授業に生かそう！　実技伝達講習	「WISC-Ⅳ」の検査結果を日頃の支援に生かそう！
Chromebook による中学校技術 ～情報とコンピュータ対応講座 双方向性プログラム～	道徳のプロフェッショナルから学ぶ！ ～道徳の授業作り 2023 夏～
アップサイクル ～穴あきウールを和製ダーニングしよう～	マイ箸を作ろう

教育会研修日報告

11 月８日（水）、同好会員を中心に、各会場で研修会を実施ました。限られた時間でしたが、「日常の授業改善」「他校の実践から学ぶ」等、明日からの取り組みに役立つ機会になりました。

研修内容		研修内容	
日常の実践について交流しよう	【国語】	木村素衛の「表現愛」について語り合う	【哲学】
信州社研安曇野支部レポート審議	【社会】	ICT の活用～ランドセルの紹介～	【教育相談】
中信ﾌﾞﾛｯｸ算数数学教育研究大会参加	【数学】	安曇野高橋節郎記念美術館見学	【人物誌】
信州理研「自然観察会」レポート検討	【理科】	英語授業における Chromebook 活用法	【英語】
音楽科における ICT 活用について	【音楽】	Chromebook の活用事例紹介	【情報教育】
長野県児童生徒美術展地区審査	【美術】	養護教諭の ICT 活用	【学校保健】
全力！おとなの鬼ごっこ	【保体】	児童生徒が楽しみながら学べる方法	【特別支援】
県展への出展作品を検討	【技家】	生き生きと活動する事例研究	【生活総合】
畏敬の念ってどうすればいいの？	【道徳】		

＊【　】内は同好会名

【郷土の文化財54】　雑誌『白樺』

『白樺』は、武者小路実篤、志賀直哉、柳宗悦、有島武郎らによって明治 34 年に創刊された雑誌です。信州では、大正4･5年から8･9年にかけて読者が急速に増加し、『信州白樺教育運動』による活発な運動がなされました。

『白樺』に傾倒した教師たちに共通したのは、児童への限りない愛情でした。教師と児童との深い人間的なふれあいの中で、一人ひとりの個性を尊重し生かすことを願い、自由闊達な教育が行われました。人間としての生きる姿を問い、美しいもの崇高なるものに心を開かせるよう努力したといわれています

郷土文化財センター運営委員

～安曇野往来～

浅科の地に育まれ

小学校　校長

　朝の道、坂を上がると見えてくる豊かな自然に囲まれた　　小学校。春の水田は鏡のよう。ふさふさと伸びた青田に風が泳ぐ夏。黄金色に輝く秋。そんな心地よさに抱かれて登校する子どもたちが私の車を見つけ「校長先生、おはようございます。」と手を振ってくれます。子どもたちの元気な笑顔に心が温かくなるのを感じます。

　　小学校の給食には、年間を通して「五郎兵衛米」が提供されます。給食応援団の皆さんの野菜も絶品です。残食はほとんどありません。「五郎兵衛米」は多くのお金と砥石山のトンネルを掘る技術をつかって用水を完成させ、佐久の地を米どころとした「市川五郎兵衛（1572～1665）」にちなんで名付けられたお米で、冷めても美味しいと評判です。4年生が五郎兵衛用水をたどり記念館を見学して先人の功績を学んでいます。地元の方々が案内人となって様々な逸話を聞かせてくださいます。5年生は学校田で五郎兵衛米を栽培し給食に提供したり保護者の方に買っていただいたりといった体験活動をしています。

　佐久平は安曇野とよく似ています。雄大な山々と広がる大地、温かな人々。学校への坂道を上るたびに安曇野を思い出しながら、子どもたちの育ちを支えるべく日々精進しています。

「つながり」を大切に

小学校　　教頭

　私の勤務する　　小学校は長野市と白馬村のほぼ中間に位置する上水内郡小川村にあります。村内各所から眺めることのできる雄大な北アルプス連峰、村の花でもある山桜が咲き乱れる春の山里、標高 1000m の大洞高原からは満点の星空。「日本で最も美しい村」連合にも加盟するとても美しいところです。

　　小学校は本年度全校児童71名。保育園から中学校までほぼ同じ仲間と過ごすという環境から多様なかかわりや学びの場を大切にしたいと考え、三年前から教科担任制や担任交換授業を本格的にスタートさせ、連学年合同授業や縦割り班「すこやか班」活動の充実も図ってきました。はじめのうちは課題も多くありましたが、現在は教職員が多くの学年の授業を受けもったり子どもたちと関わったりすることで、子どもたちの考えやよさを認めることができ全校児童とのつながりも深まってきました。また、子どもたちにとっても自分のことを知ってくれる人が増え、安心して学校生活を送ることにもつながってきているようです。

　子どもたち同士、子どもたちと先生方、先生方同士が和気藹々と温かい雰囲気の中、学校生活を送れていることは本校が大事にしている「全職員が全校児童を指導・支援・見守る学校づくり」の成果だと感じています。これからも小規模校のよさを活かし、子どもたちと教職員の「つながり」を大切に、多様なかかわりが楽しいと思える学びの場づくりに取り組んでいきたいと思います。

教師の学び」と「子供の学び」は相似形

課　指導主事

　　課では、主に教員研修業務を担当しています。初任者研修や指定研修等を企画・運営し、先生方と一緒に学ぶとともに、これからの時代に求められる研修のあり方について日々模索しています。

　令和3年1月の中央教育審議会答申では、2020 年代を通じて実現を目指す「令和の日本型学校教育」において実現すべき教師の理想的な姿が示されました。具体的

には、技術の発達や新たなニーズなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出し、子供の主体的な学びを支援する伴走者としての役割を果たすことであるとされました。そして、令和4年 12 月の中央教育審議会答申等においては、新たな教師の学びの姿として求められているのは、一人一人の教師が、自らの専門職性を高めていく営みであると自覚しながら、誇りをもって主体的に研修に打ち込むことであると指摘されました。また、教師の学びの姿は、子供たちの学びの相似形であるといえ、主体的に学び続ける教師の姿は、児童生徒にとっても重要なロールモデルであるとも示されました。

このように、個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現することは、児童生徒等の学びのみならず、教師の学びにも求められています。現在、県の研修では、対面・集合型研修だけでなくオンライン研修等も組み合わせながら実施しています。また、NITS の校内研修シリーズをはじめ、スキルアップに効果的なコンテンツも充実しています。このように学び方も多様になり研修の選択肢も増えてきています。日々、探究心を持ちつつ学び続けることを大切にしていきたいと思います。

大事なことは変わらない

小学校

初めての異動先が、現任校の　　小学校でした。「地域も学校も違うし、いろいろ違うのかな？」と思いながら赴任しましたが、4 年たった今も安曇野との大きな違いは見つけられていません。むしろ、どこに行っても、大事なことは変わらないのだなと感じるようになりました。

私は今、「個別最適な学び」「協働的な学び」について学び始めました。書籍や先輩の先生方から学んだことをとりあえずやってみるスタイルで、子どもたちと共にその良さを感じたり、難しさを感じたりしています。日々変化する社会や目の前の子どもたちにあった、授業・指導をしていかなければ、社会とも子どもたちとも距離が生まれていく一方です。目の前にいる子どもたちを大切にするためにも、学び続けることが大切だと感じています。また、それは、どこにいても変わらない大事なことの一つだと思っています。

これから先、経験が増えていっても、目の前の子どもたちを大切にした授業や指導ができるよう、学び続けたいです。

東西南北　『大切にしたい言葉』

正しいことを言う時こそ　ひかえめに
責められて　気分がいい人はいない
正しさよりも　優しさを

私は、令和 2 年度から 3 年間、下伊那教育会にお世話になりました。下伊那教育会の拠点である下伊那教育会館は、風格のある建物で、下伊那の校長先生方とたくさん話をし、悩みを聞いていただき、元気をいただいた思い出多い場所です。令和 3 年度も終わりに近づいた頃、校長会の帰り際に、各学校への配布物を入れる棚の上をふと見ると、先程の言葉がさりげなく飾られていました。当時事務局にいらした元校長先生のどなたかが書いて置いてくださったものだと思います。これを見た時、自分の欠点をズバリと指摘された気がして、心にズシンときました。そしてすぐに書き留めました。

今でも時々この言葉を見ては、自分はまだまだだなと反省しています。
これからもずっと心に書きとどめておきたい言葉の一つです。

小学校